

第 111 回古民家歴史部会歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 6 回」

平成 28 年 10 月 5 日（水） 「川崎宿(3)」

*集合：(京急)鶴見駅 9 時 50 分厳守同時出発

(1)行 程：下記探訪先に同じ

(2)食事 場所：自 由 行 動

(3)探 訪 先：「神奈川の宿場を歩く」、「東海道五十三次ハンドブック」等を参考にした。
(京急)鶴見駅(改札前)スタート・JR 鶴見駅ビルを経て、総持寺へ

① 総持寺(曹洞宗大本山諸嶽山・本尊釈迦牟尼也尊)： 福井県永平寺と並ぶ曹洞宗大本山で、境内 15 万坪、山門勅願道場の象徴・勅使門、仏殿日本一の大きさを誇る放光堂や僧堂など大小 50 余棟の伽藍、全国 1 万 5 千余の末寺を持つ大本山としての威容を誇っている。 1,906 年(明治 39)石川県門前町にあったが、1,898 年(明治 31)4/13 の大火で焼失し、鶴見に移転した。

1,615 年(元和元)、家康により永平寺と同格の本山に列せられ、加賀藩主前田家から寺領を受け、大いに発展した。

(1) 文化財：中世末期。唐近世にかけての宗内文書多数、画家のダイバダック(釈尊従弟、国宝)、前田利家夫人像(重文)、紹硯和尚像(重文)…等々。

(2)境内主建造物(非常に多い)：三松閣(さんしょうかん)(鉄筋日本一の山門)、三松閣(檀信徒道場)、大講堂・香積台(こうしゃくだい)…等々。

(3)総持寺に眠る人々：浅野総一郎(1,848～1,930、セメント業先駆者)、芦田均(1,887～1,959、元民主党総裁)、石原裕次郎(1,934～1,987、戦後を代表する俳優・歌手)、元横綱前田山、川上貞奴(欧米を巡業した最初の女優)…等々多彩。

②東福寺(真言宗智山派の寺、子生山・本尊、如意輪観世音・子育観音)：子求めの祈願寺として栄えた。 芭蕉や飯田九一の句碑あり

② 慶岸寺(浄土宗の寺、入蔵山・本尊、阿弥陀如来・子育地藏尊等有名)1,581 年(天正 9)創建・開山、天正昭誉究竟慶岸大和尚。

④魚河岸通り：生麦は江戸時代、幕府に魚を献上する魚菜 8 か村の一つで朝市が立った。漁師町だった生麦は、今も朝市があり、約 4 0 0 m の通りに 8 0 軒ほどの店がある。活気があるのは、朝 8 時前後で、1 1 時には店じまいとなる。

⑤ 道念稲荷社・蛇も蚊も祭り：本宮の道念稲荷社(生麦 4・2 7)と、原の神明社の 2 か所に数百年前から伝わる「蛇も蚊も祭り」は、横浜市指定無形民俗文化財。生麦が農漁村であった頃の雨乞い祈願の行事で、悪疫を追い出し豊漁を祈った。(毎年 6 月第 1 日

曜日に行われる。)

- ⑥ 原の神明社：祭神・天照大神(生麦3-13)「蛇も蚊も祭り」を、本宮の道念稲荷社(⑤)と連携して行う。

- ⑦ 正 泉 寺(真言宗の寺、南海山・本尊、薬師如来)創建 1624 年(寛永元)

- ⑧ 生麦事件碑(生麦 1-16)：1,862 年(文久 2)8 月 21 日、薩摩藩主の父・島津久光の行列が生麦村を通行中、馬に乗って行列に紛れ込んだ 4 人の外国人の 1 人・英国商人リチャードソンが、護衛の武士に切り殺されてしまった。

幕末の動乱期に起った外国人殺傷事件は、賠償問題から薩英戦争にまで発展、その後の日本外交に大きな影響を与えた。明治 16 年、鶴見の黒川荘三が、リチャードソンの死を悼み、事件の風化を防ぐため私費を投じて「生麦事件碑」を建立、地元顕彰会が、毎年 8 月 21 日に記念祭を行っている。(横浜市登録文化財)

- ⑨ 生麦事件参考館(生麦 1-11-20)：18 年かけて集めた生麦事件に関する国内外の資料 140 点余りを展示している私設の資料館。 隣に酒の博物館もある。

***お知らせとお詫び：**ご案内時点では、「麒麟横浜ビアビレッジ(横浜工場)」の見学とビール試飲の予定でしたが、幹事不手際により、見学の予約が取れず、その後のキャンセルもないため、ビアビレッジには寄りませんので、ご了承ください。

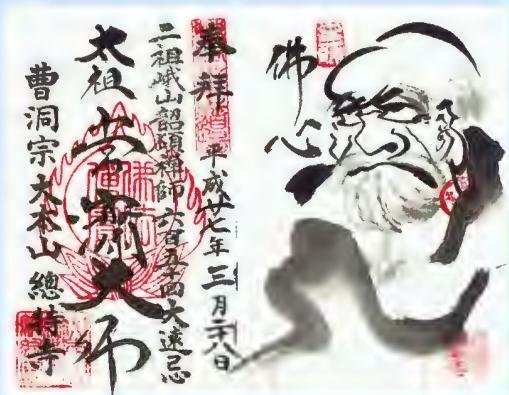
——(京急)生麦駅近くで昼食後、解散。

以上

東海道歴史探訪6

川崎宿3

2016.10.5



總持寺御朱印



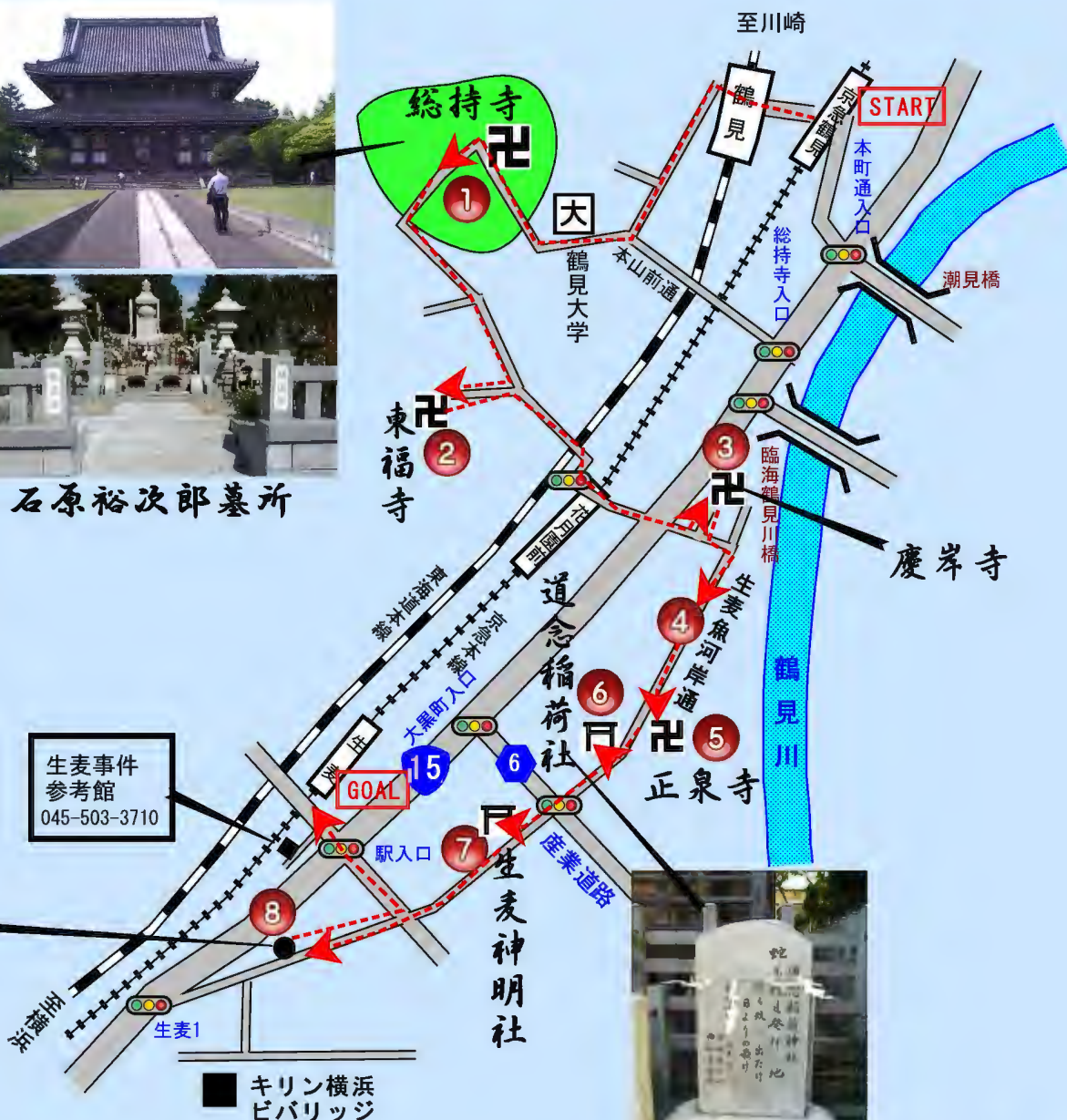
生麦事件碑



石原裕次郎墓所

生麦事件
参考館
045-503-3710

キリン横浜
ビバリッジ



能登国櫛比庄（現在の石川県輪島市）の真言律宗の教院「諸嶽観音堂」が、「總持寺」の前身である[1]。能登の「總持寺」は、1911年（明治44年）寺基移転にともない「總持寺祖院」と改称されている。1321年（元亨元年）曹洞宗4世の瑩山紹瑾は、「諸嶽観音堂」への入院を住職の定賢から請われる。また同年に定賢より「諸嶽観音堂」を寄進され、寺号を「總持寺」、山号は「諸嶽観音堂」にちなみ「諸嶽山」と改名し禅院とする[1]。1322年（元亨2年）後醍醐天皇より「曹洞賜紫出世第一の道場」の綸旨を受けて官寺、大本山となり、曹洞宗を公称する。住職を5つの塔頭（普蔵院、妙高庵、洞川庵、伝法庵、如意庵）からの輪番制となる。1615年（元和元年）徳川幕府より法度が出され、永平寺と並んで大本山となる。梅崖奕堂以降独住制となる。1898年（明治31年）火災で焼失する。1911年（明治44年）現在地に移転。現在、旧地に總持寺祖院（石川県輪島市門前町）がある。永平寺派の「有道会」と並ぶ、「總和会」（總持寺派）の中心寺。



大祖堂



三松閣



参道と三門



仏殿



香積台(こうしゃくだい)



向唐門(むかいからもん)



「生麦事件」

文久2年（1862）8月21日、薩摩藩主の父・島津久光の行列が生麦村を通行中、馬に乗って行列に紛れ込んだ4人の外国人の1人、英国商人リチャードソンが警護の武士に斬り殺されてしまった。

生麦事件（なまむぎじけん）は、幕末の文久2年8月21日（1862年9月14日）に、武蔵国橘樹郡生麦村（現・神奈川県横浜市鶴見区生麦）付近において、薩摩藩主島津茂久（忠義）の父・島津久光の行列に乱入した騎馬のイギリス人たちを、供回りの藩士たちが殺傷（1名死亡、2名重傷）した事件である。

尊王攘夷運動の高まりの中、この事件の処理は大きな政治問題となり、そのもつれから薩英戦争（文久3年7月）が起こった。事件の石碑は、京急本線生麦駅近くに残っている[1]。

みどころ

「生麦事件」

文久2年（1862）8月21日、薩摩藩主の父・島津久光の行列が生麦村を通行中、馬に乗って行列に紛れ込んだ4人の外国人の1人、英国商人リチャードソンが警護の武士に斬り殺されてしまった。

幕末の動乱期に起こった外国人殺傷事件は、賠償問題から薩英戦争にまで発展。その後の日本外交に大きな影響を与えた。明治16年、鶴見の黒川莊三がリチャードソンの死を悼み、事件の風化を防ぐために私費を投

日本が鎖国のとき、横浜は開港により世界を知ることとなった。そして現在、日本有数の観光スポットとして発展した横浜だが、実は開港前は小さな小さな漁師町にすぎなかったということはあまり知られていない。

しかし、その横浜において開港前から大いに賑わっていた場所がある。それは「生麦」だ。江戸時代より、幕府に魚を献上する『御菜8か村』のひとつとして、魚が売買されていたという。

現在もその名残をとどめ、約400メートルつづく「生麦魚河岸通り」では、新鮮な魚介類が賑やかなかけ声とともに早朝から販売されている。JR鶴見線の無人駅「国道」駅から歩いて2、3分ほどの距離にあるが、駅周辺からすでに活気があふれ、汐の香りが漂ってくる。「生麦魚河岸通り」は旧東海道の一部区間でもあり、江戸時代からの賑わいを今にも残している。

生麦魚河岸通り

網の目のように続く砕かれた貝殻が埋め込まれた白い貝殻道を歩いていくと、メインストリートに入る。いったいどれだけの商店が並んでいるのだろうか。ゴム引きの長いエプロンをまいた人たちが、プロの料理人と思われる男性とあれこれ話しながら、魚を箱に詰めていた。



道念稻荷社の蛇も蚊祭り



神明社と本宮の道念稻荷社の2か所に数百年前から伝わる「蛇も蚊も祭り」は、横浜市指定無形民俗文化財。生麦が農漁村であったころの雨乞い祈願の行事で、悪疫を追い出し豊漁も祈った。



茅で作った20mもの大蛇を担ぎ、「蛇も蚊も出たけ 日よりの雨け ワッショイ！ワッショイ！」と威勢よく町内を練り歩く。毎年6月第1日曜日に行われる。